

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200183	事業の開始年月日	平成12年10月1日
		指定年月日	平成12年10月1日
法人名	特定非営利活動法人介護グリーンハウスえがお		
事業所名	グループホームグリーンハウス		
所在地	(243-0433) 神奈川県海老名市河原口 1丁目10番10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月11日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さん本位の施設、各人が役割を持つ、それぞれご利用者の力に合わせ役割を持つことで、私は役に立っている。私はまだまだ出来るんだ。と自信がつく、日中は、歌を歌ったり散歩に出たりし、食事も下準備など職員と一緒に手伝ってもらい、皆で一緒に作り、食べる。家庭的な雰囲気を大切に、ホーム自体が一つの大きな家族のように、皆さんが安心して過ごせる場所「家」を目指す。今はコロナの為なかなか外に行けませんが、本来なら、月に一度の外出デー（皆さんに食べたいものを聞いて食べに行く）、ご家族を呼んでの、敬老会やクリスマス会、毎年、地域交流として、海老名市の市民音楽祭などに参加している。皆さん明るく、笑顔の絶えないホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年2月8日	評価機関 評価決定日	令和3年5月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急小田原線またはJR相模線「厚木」駅、下車徒歩約10分の住宅地にあり、2階建ての2世帯住宅を改修した1ユニットのグループホームです。事業所の前には相模川が流れ、丹沢山系も望めます。近くには神社や寺院などもあり、利用者が散歩をするには便利な場所です。

<優れている点>

利用者各自の役割分担を決め、理念の実現を図っています。各自の役目は掃除、食器洗い、草取り、洗濯物のたたみなど、一人で5～6種類あり、これをリビングに張り出しています。地域との交流に力を入れています。自治会には開設当初より加入しており、夏まつりや盆踊りに参加しています。事業所主催のバザー「グリーンハウスまつり」には、毎年大勢の近隣住人が集まってきました。避難訓練を年に5～6回実施しています。日中、夜間、火災、地震、水害など、想定を変えて行っています。

<工夫点>

コロナ禍の現在でも、利用者の健康維持のため、近所の神社や寺院などへの散歩や買い物への付き添いを行っています。事業所では散歩表を作成し、各自が平等に外出できるように、工夫しています。今まで月に1度実施していた外出に代わり、寿司やから揚げなどの宅配を利用しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームグリーンハウス
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所当時から、変わらぬ理念を掲げていて、玄関やリビングなどに貼り、職員一同共有し、実践につなげている。	事業所の理念は「1. 人権の尊重 1. 各人が役目を持つこと 1. 家庭的な雰囲気」で、開設時に理事長が作成しています。職員は毎年4月のミーティングで、理念についての話し合いを行い、利用者は各自役目を持つことで、理念の実現を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。回覧板などで参加できそうな行事などあれば、参加している。散歩に行くときはこちらから積極的に挨拶をするようにしている。	自治会に開設当初から加入し、盆踊りや祭りなどの行事に参加しています。利用者が散歩に出かけるとき、近所の人に出会えば積極的に挨拶を交しています。事業所が行う「グリーンハウスまつり」のバザーには、近所の人々も大勢参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市民音楽祭に参加した際、ホームでの様子や行事など、認知症の方でも皆さんと変わらず、色々できる事をポスターにして張り出し皆さんに見てもらったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年は、コロナウィルスの為、ほかの方の参加が難しく、職員と利用者で1度だけ行った。	通常は年2回、市役所の担当者、民生委員、自治会長、家族がメンバーで開催しています。今年度はコロナ禍の影響で、管理者と利用者として開催し、活動状況の報告、質疑応答を行い、施設内行事、災害対策、コロナウィルス対応などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要なことは、メールなどで連絡が来る。困った時などは、市役所に電話をし、各部署の方と話し合いを行っている。	市役所の担当窓口は、高齢福祉課、生活支援課などです。必要な事項について連絡を取り合い、困ったときには各部署の担当者と話し合い、必要な会議に出席しています。毎年参加している海老名市民音楽祭は今年度は中止となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事務所にファイルがあり、いつでも見られるようになっている。職員はよく確認し理解してケアに取り組んでいる。	身体拘束の禁止は、運営規程および利用契約書に明記し、家族にも説明しています。職員は外部研修に参加し、ミーティングでの話し合いを行っています。すぐに確認できるように、見やすくまとめたファイルもあります。常に利用者の尊厳を傷つけない介護を心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修などに行き勉強している。月に一度のミーティングにて、職員間で話し合い、身体的にも精神的にも虐待の無いよう、皆で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在活用しているご利用者がいる。必要に応じ、市の担当者と話し合いをして、後見人を依頼申請してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族と一緒に、確認しながら契約を行っている。ご家族が分かるようにゆっくり説明し分かっていただいたところで、次の説明に進む。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を設定している。毎年1回家族会を開催し、話し合いの場を作っていて、そこでの意見などは職員間で話し合い改善するよう努めている。	家族会は年に1回開催しています。過半数の家族が参加しており、今まで行った行事や、今後の事業所の方針を話し合い、利用者や家族の意見や要望を聞いています。2ヶ月に1回写真入りの広報誌を発行して、様子を家族に知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度のミーティングにて、皆で話し合いの場を設け、一人一人の意見を聞き運営に反映させている。	ミーティングでは、一人ひとりの意見を聞いて、できるだけ運営に反映させるように努めています。職員の提案が採用された事例として、リビングでの利用者の席を、頃合いを見計らって変える「席替え」などがあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	非常勤職員に対しては、処遇改善など行われていて、やりがいなど向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を行っている。ミーティングにて、個々の利用者に対しケアの仕方を話し合い、オリエンテーションを行い皆で共有するよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウィルスの為、今は行えていないが本来なら、グループホームえがおと、月に一度交流会を開いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族から情報提供して頂き、職員は皆で確認する。本人より会話の中から不安や要望等聞き取り、本人が安心して過ごし話せるような信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が一番心配している事を良く聞き一緒に話し合いながら解決していく。不安、要望等に耳を傾け職員皆で確認し解決していく事で、家族との良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族とじっくり話し合い、必要としている支援を確認し、職員間で話し合いをして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と同じ立場に立ち、自尊心を傷つけない様にし、同じところで暮らす仲間ような関係、職員が上に立たないような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と良く話し合いをし、利用者と家族の絆を大切に、職員皆で家族と共に利用者を支えていく関係を築いていけるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人知人誰が来ても受け入れられる態勢をとっている。回想法など本人の思い出の場所や食べ物など聞き提供できるようであれば提供するよう心掛けている。現在は庭や玄関での面会としてもらっている。	コロナ禍で一時家族や友人、知人との面会を中断していましたが、昨年7月より再開しています。以前は居室やリビングに招いていましたが、現在は玄関での面会となっています。電話や手紙などでも馴染みの関係が継続できるよう、支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を職員皆で把握し孤立しない、各人が安心して生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も交流を持ち、会いに行ければ会いに行ったり、ご家族とも電話でやり取りなどしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が何をしたいか、欲しいものはなにかなど、色々話を聞き可能な限り本人の意向を優先している。	職員は利用者の様子をよく見て、話を聞き、希望や意向の把握に努めています。化粧品など、本人が使っていたものを、職員とっしょに買いに行くこともあります。思いや意向、希望などは業務日誌に記入し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族等から情報を収集し、寝具や写真など本人が使用していたものを使い本人が自分の家で暮らしているよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員皆が把握し、その人にあった生活が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員間月に一度のミーティングにて話し合いをし、本人、家族などに確認をし現状に即した介護計画を作成している。	作成担当者は、本人と家族の意向、職員の意見や医療情報を参考に介護計画を作成しています。長期目標は1年、短期目標は半年に設定していますが、状況に変更があるときには都度更新しています。モニタリングはミーティングで行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録や業務日誌を記入し職員間で情報を共有している。そこで問題になっている事はミーティングで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々に対応して、職員間又は管理者と相談して柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の持っている力を発揮でき、安全で楽しむ事の出来る催し等あれば進んで参加出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回ホリイマームクリニックにて往診を行っている。毎週、訪問看護師訪問歯科が来てくれていて、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医療機関の内科医の訪問診療が月2回、訪問看護が週1回あります。24時間オンコール体制が構築されており、緊急時には、かかりつけ医療機関の看護師が対応しています。内科以外では歯科の訪問診療が週1回あり、口腔ケアを提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、訪問看護師に利用者の状態を話し相談し適切な受診や看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホームでの状態など、書面にできちんと伝えるようにしている。病院からの電話等は、職員皆が答えられるようにしている。施設で分からない事は主治医に24時間体制で確認できる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族、主治医とじっくり話し合い、今後の方針を共有し対応している。	入居時に重度化した場合の事業所の方針や支援内容を家族に説明し、同意を得ています。実際に重度化した場合には、医師も含め家族と話し合いの機会を設け、終末期の方針を家族と共有しています。まだ看取りの事例はありませんが、対応できる体制になっています。	看取り研修を充実し、看取り体制の更なる強化も期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎年、海老名消防救急隊員立会いにて蘇生法・AED使用訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2か月ごとに、火災、地震、水害などの避難訓練を行っている。そのうち1回は海老名消防立会いのもと、非常ベルを鳴らし避難、通報、消火と全ての訓練を行う。	避難訓練を年5～6回実施していません。日中・夜間・火災・地震・水害など、想定をその都度変えることにより、毎回同じような訓練にならないように工夫しています。飲料水・レトルト食品・懐中電灯などを備蓄し、定期的に賞味期限の確認を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを傷つけず、その人にあった言葉かけや対応をするよう心掛けている。	認知症の理解、権利擁護、倫理・法令順守など、利用者の人格を尊重するための外部研修に職員が参加しています（今年はコロナ禍の為、内部研修を実施予定）。外部研修に参加した職員は、ミーティングで内容を報告し、職員間で知識を共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の話を聞き、思いや希望があれば職員が決めるのではなく本人が自己決定出来るような対応をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にして無理強いせず、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分が愛用している化粧品など購入したり、衣類もご自分で選べるように整理し一人で出来る方はご自分で出来るよう支援している。一人で出来ない方は職員が介助し支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	役割分担で調理をしてもらったり食器を洗ってもらったりしている。食事は個々の力を活かし刻み食にしたり出来る限りご自分で食べて頂くようにしている。	食材宅配サービスを利用しています。業者からメニューと食材が提供され、職員が調理しています。盛り付け、食器拭きなど、食事の準備や片付けに参加する利用者がいます。月1回外食デーがありますが、コロナ禍のため、宅配やテイクアウトで提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録に食事摂取量、水分摂取量の欄があり毎日記入している。栄養バランスは、食材配送会社が管理してくれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、自分で出来る方は自分で、出来ない方は職員が介助し行う。毎週月曜日に訪問歯科があり一人ひとり診て頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	現在はいないが、排泄チェック表を作り、排泄パターンなど確認している。	観察や排泄チェック表により、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声かけやトイレ誘導を行っています。排泄チェック表により排泄パターンを把握した結果、毎日のように失禁していた状態から、ほぼ失禁なくなるまでに改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝の体操や散歩などで体を動かしてもらったり水分を多く摂取してもらい便秘にならない様工夫している。訪問看護師にお腹の動き張りなど見てもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	リビングに入浴表を貼ってあり。ご自分で入浴日を確認してもらっている。一人週2回は入浴出来るよう組んでいる。ご自分の意志で入りたくない場合や熱がある場合などは入浴はしない	入浴は原則週2日です。同性介助の希望がある場合は対応しています。利用者が入浴を拒否する場合、時間をおいて誘導したり、職員を変えて誘導したりするなどして対応しています。季節を感じて貰えるように柚子湯や菖蒲湯などの季節湯を提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者に合わせた対応をしている。昼寝をする方や夜少し遅くまで起きている方など職員が個々に分かっており利用者が良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルがあり、誰がどのような薬を飲んでいるか職員がわかるようにしている。その人その人で服薬の仕方を変えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割分担表を作り個々の力に合わせた役割をしてもらう。ドライブや散歩など行く事で気分転換をしてもらう。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩表を作成し皆さんが行けるよう工夫している。出来る限り、散歩に行ける日は散歩に行く、月に一度の外出デーを作りファミレスや回転ずしなど普段いけない所に行く、家族や友人といつでも出かける事が出来るよう支援している。	日常的な外出支援として、近隣の神社への散歩、ドラッグストアなどへの買い物付き添いを行っています。散歩表を作成し、平等に外出できるように工夫しています。コロナ禍で外出イベントは自粛していますが、事業所内でのイベントを充実させています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	皆で外出するときは個々に小遣いを持ち自分の好きなものを購入出来るようにする。職員が付き見守る		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望があれば、いつでも出来るようにしている。内容は職員が付き日誌や個人記録に記入する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは利用者同士皆で掃除してくれる。トイレ、玄関などは職員が掃除をし行事写真や創作物など飾り皆が居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングや廊下の壁面には、イベント時の写真、利用者の作品、季節の飾りつけなどを掲示しています。リビングにソファを設置し、談話したり、くつろいで貰えるスペースと成っています。共用空間の清掃や消毒は毎日行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルは食事席を決めているがその時に応じて違う方が座っても良くしている。ソファがありのんびり座っている方や自室で過ごすなどその方にあった居場所づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅にて使用していたもの持ってきていただき、使い慣れたもので本人が居心地良く過ごせるような対応をしている。	居室には、エアコン・ベッド・クローゼット・照明・防炎カーテンが備え付けられています。利用者は、家具や仏壇など、馴染みの物を自由に持ち込むことができます。居室担当職員が衣類や化粧品などの管理を行ない、心地よい居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に過ごせるよう職員間で話し合っている。手すりや、トイレの誘導張り紙など、出来る限り自立出来るよう物の配置など工夫している。		

2020年度

事業所名 グループホームグリーンハウス

作成日： 令和3年 5月 13日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在、看取り介護は行っていないが、生来的に看取り介護が出来るよう、職員一人一人のレベルアップをはかり研修等を行う。	外部研修に参加し、職員全員で共有する。	コロナの為、外部研修が少なくなっている、オンライン等で参加できる研修など探し、積極的に参加する。職員皆が出来るよう勉強会を開催する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月